

Veeam Data Cloud Vault：シンプルさ、予測可能性、組み込みの回復力

クラウド上のバックアップストレージに関して、ITチームは予測できないコストと複雑なオーバーヘッドという2つの課題にしばしば直面します。Veeam Data Cloud Vault（Veeam Vault）は、**コスト予測が可能でセキュアかつフルマネージド型の、すぐに復元可能な**ストレージサービスを提供することで、これらの課題を解決するために設計されました。

本ガイドでは、Veeam Vaultが他製品と一線を画す理由を、特に総所有コスト（TCO）の評価に焦点を当てて解説します。

隠れたコストなし：透明性の高い、予測しやすい価格体系

Veeam Vaultの価格体系は非常にシンプルです。1TBあたり、すべて込みの月額定額料金をお支払い頂きます。つまり...

- ストレージ、データ送信、API呼び出し、リストアは月額料金にすべて含まれています。
- 運用や帯域幅の使用量に関する隠れた明細項目はありません。
- 安定した月額コストにより、予算編成や将来の見通しが立てやすくなります。

これによって予期せぬ高額請求が回避され、ITチームと財務チームは自信を持って計画を立てることができます。実際に、多くの組織は、料金の予測可能性だけでなく、管理にかかる時間やリソースを節約できることで、DIYクラウドストレージと比べてVeeam Vaultの方が長期的に安価に抑えられることを認識しています。



重要なポイント：Veeam Vaultは、毎月信頼できる定額料金を提供します。

フルマネージド型、使いやすさ

Veeam Vaultは、**Veeamが全面的に管理を行うStorage as a Service型のサービス**です。つまり...

- インフラストラクチャの導入、設定、保守は不要です。
- プロビジョニングは、直接Veeam UIから数回クリックするだけで実行できます。
- 設定はシームレスであり、クラウドに関する深い専門知識がない小規模なITチームでも、すぐに導入できます。
- クラウドプロバイダーのアカウント、ストレージコンテナ、アクセスポリシー、ログイン情報を個別に管理する必要はありません。

この使いやすさにより、作業時間を短縮し、運用リスクを低減できます。Veeam Vaultを利用することで、クラウド設定の専門知識は不要となり、バックアップの完全性を損なう可能性のあるミスを心配する必要もありません。



重要なポイント：Veeam Vaultは、時間のコストと運用の複雑さにかかるコストの両方を削減します。

組み込みのイミュータビリティとセキュリティ

Veeam Vaultは**ゼロトラストアーキテクチャ**に基づき、「どの環境も完全には信頼できないこと」を前提に設計されています。セキュリティ上の主な利点は次のとおりです。

- デフォルトでイミュータブル：バックアップは自動的にWORM（Write Once, Read Many）状態で保存され、攻撃者や不正な管理者による削除や暗号化を防ぎます。
- 論理的エアギャップ：データはVeeamの管理対象テナンシーに保存され、本番環境とは分離されます。
- 常に暗号化：転送中および転送後もAES-256で暗号化され、キーはお客様が保有します。

つまり、余計な設定や設定ミスがなく、人為的ミスによってバックアップが危険にさらされることもありません。パブリッククラウドクラウドストレージサービスはイミュータビリティ機能を提供していますが、手動で設定する必要があります。デフォルトではオフになっているため、適切に設定しないとリスクが生じます。



重要なポイント：Veeam Vaultは、回復力を自動化することでセキュリティのTCOを削減します。

迅速で安心の復元

バックアップは、迅速かつ手頃な価格で復元できて初めて価値があります。Veeam Vaultでは以下が可能です。

- すべてのデータは、パフォーマンスが最適化されたストレージにオンラインで保持されます（アーカイブの取得に何時間も待つことはありません）。
- 完全なDRテストでも緊急時の復元でも、リストア中にデータ送信費用がかかることはありません。
- Azureやその他のハイパースケーラーに直接復元できるオプションにより、ビジネス継続性を迅速に確立できます。

復元における技術的・財務的障壁を取り除くことで、Veeam Vaultは定期的なDRテストの実施を促進し、実際のダウンタイムコストを削減します。多くの企業は、データ送信費用が数千ドルにも上る可能性があることから、DIYクラウドストレージの全規模DRテストを避ける傾向にありますが、Veeam Vaultならその懸念を完全に取り除くことができます。



重要なポイント：Veeam Vaultは、データだけでなく復元能力自体も保護します。ペナルティはありません。

1つのベンダー、 1つのソリューション

Veeam VaultはVeeamによって提供されているため、サポートは一元化されています。お客様は、問題が発生した際に複数のプロバイダーを行き来する必要はありません。バックアップソフトウェアとクラウドストレージがシームレスに連携し、**責任の所在が一元化されています。**



重要なポイント：ベンダーの複雑さが減ることで、サポートの負担が軽減され、問題解決までの時間が短縮されます。

TCO上のメリット

総所有コストを評価することで、Veeam Vaultの真の価値が明らかになります。

TCO要因	Veeam Data Cloud Vault	DIYパブリッククラウドストレージ
価格体系	TB単位の定額月額料金すべて込み。データ送信、API呼び出し、リストアに追加料金はかかりません。	ストレージは従量課金制で、データ送信、API操作、データ取得などに料金が別途発生します。こうした複雑な価格体系により、思いがけない請求が発生する可能性があります。
コストの予測可能性	高い。固定価格体系のため、予期せぬ請求はなく、頻繁にリストアを行ってもコストは一定で、予測が容易です。	低い。使用量に基づく料金は予想外に急増することがあります。毎月の費用を正確に予測することは困難です。
イミュータビリティ（不変性）	デフォルトで組み込まれています。すべてのバックアップは自動的にWORM/イミュータブルな状態となります。ランサムウェア対策済みです。	オプションの設定であり、管理者はそれを有効にして管理する必要があります。デフォルトではオフになっており、設定を誤るとバックアップが脆弱な状態になります。
使いやすさ	ターンキー式、および統合化。Veeam UIから数分でプロビジョニング可能です。フルマネージド型であり、サポートは1社での対応になります。	ご自身で管理が可能。ユーザーはコンテナを作成・設定し、ログイン情報およびポリシーを管理する必要があります。クラウドの専門知識が必要です。
復元操作	高速かつ無料。データに即座にアクセスできます。データ送信費用はかかりません。DRテストは無料です。	処理速度が遅く、コストがかかる可能性があります。アーカイブ層の場合、何時間にもわたる遅延が発生します。大規模なリストアでは、多大なデータ送信費用が発生します。
セキュリティと分離	ゼロトラストで、物理的に隔離されます。クラウドテナントは分離されます。AES 256-bitで暗号化された状態で維持され、キーはお客様が保有します。	ユーザー次第です。セキュリティは正しい設定に依存します。データはアカウント内に存在します。ログイン情報が侵害された場合、バックアップはリスクにさらされます。

概要

- ・ **財務**：一定かつ予測可能なストレージ価格体系。
- ・ **運用**：ターンキー導入により、管理負担を削減。
- ・ **セキュリティ**：イミュータブルで暗号化され、物理的に隔離された状態をデフォルトで提供。
- ・ **復元**：リストアやDRテストに対するペナルティはなし。

まとめ

Veeam Data Cloud Vaultの価値は、バックアップストレージの真のコストにはストレージ自体にかかる料金以外のものも含まれるという、非常にシンプルな現実のうえに成り立っています。クラウドバケットの設定や管理に費やされるエンジニアリングの時間、DRテスト時に発生する予期せぬデータ送信費用、イミュータビリティポリシーの設定ミスによるセキュリティリスク、そして問題発生時に複数のベンダーに対応しなければならない運用の負荷などがあります。

Veeam Vaultは、こうした隠れたコストを設計段階から解消します。一律の価格体系、ターンキー導入、デフォルトでのイミュータビリティと暗号化、そしてペナルティなしのリストアにより、組織はクラウドバックアップストレージについて悩む必要はなくなります。

クラウドバックアップ戦略を検討しているITチームの場合、通常は「1TBあたりのストレージコストはどれくらいか」といった質問が挙がります。しかし、その質問は「それに伴うその他すべてを含めたコストどれくらいか」に置き換えるべきです。このような評価を行うことで、Veeam Data Cloud Vaultが一貫して総所有コストを抑え、より強固なセキュリティ態勢を実現し、必要時に安心して復元できるという確信を提供するソリューションであることがわかります。

➔ ご利用の環境に最適なソリューションについて、**Veeamエキスパート**にご相談ください。